

教育・保育の需要見込み

◆ 教育・保育の量の見込み（平成27年度～平成31年度）

	平成27年度					平成28年度					平成29年度					平成30年度					平成31年度				
	1号認定 幼稚園 3～5歳	2号認定 保育		3号認定 保育		1号認定 幼稚園 3～5歳	2号認定 保育		3号認定 保育		1号認定 幼稚園 3～5歳	2号認定 保育		3号認定 保育		1号認定 幼稚園 3～5歳	2号認定 保育		3号認定 保育		1号認定 幼稚園 3～5歳	2号認定 保育		3号認定 保育	
		幼稚園の 利用希望 が強い※ 3～5歳	3～5歳	0歳	1、2歳		幼稚園の 利用希望 が強い※ 3～5歳	3～5歳	0歳	1、2歳		幼稚園の 利用希望 が強い※ 3～5歳	3～5歳	0歳	1、2歳		幼稚園の 利用希望 が強い※ 3～5歳	3～5歳	0歳	1、2歳		幼稚園の 利用希望 が強い※ 3～5歳	3～5歳	0歳	1、2歳
量の見込み	2,594	336	2,096	864	2,033	2,643	343	2,136	857	1,944	2,626	341	2,123	853	1,928	2,609	338	2,108	843	1,916	2,522	328	2,039	833	1,903
(合計人数) 幼稚園需要・保育需要	2,930		4,993		2,986		4,937		2,967		4,904		2,947		4,867		2,850		4,775						
(%)	24.77%		42.21%		25.45%		42.08%		25.45%		42.07%		25.46%		42.05%		25.14%		42.12%						
人口推計(0歳～5歳)	11,828					11,733					11,656					11,574					11,338				

※家族類型から2号認定に分類するが、確保方策検討の際には幼稚園の利用希望として見込む

教育・保育(幼稚園、認定こども園、保育施設)の考え方

考え方	
○需要への対応	<p>0～2歳児 依然として増加傾向にあり、引き続き対策が必要だが、特に0歳児において、平成25年度の保育需要数(待機児童含む)と平成27年度の保育需要見込みの乖離が大きい。1歳での入園が困難なため、育児休業復帰を早めるケースもあり、0歳児の需要増の要因になっていると推測される。</p> <p>需要見込み 0歳 864人 25保育需要 481人 1～2歳 2,033人 25保育需要 1,679人</p> <p>3～5歳児 ・地域的なアンバランスはあるものの、ほぼ需要に対応できているが、平成25年度の保育需要数(待機児童含む)に比べて平成27年度の保育需要見込みが少ないことから、低年齢からの継続的な利用意向を十分に反映した需要量見込みとする。 ・幼稚園については、区外の幼稚園利用者、他区民の利用とも多いため、ニーズの把握が課題である。 ・短時間保育(パート就労者)への対応等、保育施設、幼稚園で総合的な対応を検討する。</p> <p>需要見込み 幼稚園利用 2,930人 (25年度幼稚園利用者3,028人、区外幼稚園利用を含む) 類似施設利用者 70人 保育利用 2,096人 (25年度当初入所 2,146人)</p>
○休日保育	<p>新制度においては、保育に欠ける曜日や時間帯にかかわらず保育を実施し、通常の保育料とは別に保護者負担を求めないこととされているが、人的負担や効率性の課題もあることから、現行の子育てサービスとしての休日保育を基本とする。</p>
○延長保育	<p>区立・私立合わせ約1,100人を超える定員が確保されている。需要見込み1,419人とは約300人の開きがあるが、13時間保育を行っている認証保育所の定員が600人を超えていることから、需要は確保できていると考えられる。全園で実施している延長保育を継続する。</p>

※各事業の新制度移行に向けた課題については、前回報告のとおり。